ハワイ日本文化センター
口述歴史インタビュー

話し手：　藤花教道 (KF)
聞き手１：　一隅会メンバー（姓名不明）(IG)
聞き手２：　一隅会メンバー（姓名不明）(UN)
実施日：　1978 年 5 月 6 日（昭和 53 年）
転写者：　脇　洋子
転写日：　2014 年 4 月から 5 月

註：((？)) は聞き取れない又は不明瞭な言葉
[　] 内は転写者による註又は英語の言葉とその和訳。名前の漢字は JCCH 作成の収容者リスト又は日布時事発行の布哇年鑑（昭和 11－12 年）に拠る。

IG:　藤花先生今日は良く来てくださいました。

KF:　ああ、いやいや。

IG:　今日はひとつですね、藤花先生のいろいろお話を聞きたいと思うんですが。

KF:　私はそういう気持ちではなくてですね、ただ悄然とやってきたんです。正直言うと荒先生にね上手い事つられてこちらにすかーっと来たんでうろちょろしている魚みたいなもんで。簡単にひっかかっちゃたんだ。良い餌もないのに。

IG:　しかし、ひっかかったら百年目で。そんな気持ちでやってもらわないといかんですから。

KF:　そしたらあんたの顔みたら試験官みたいに沢山あつまっているから。

IG:　それでなんですね先生の出生はどちらですか。

KF:　私東京で、そして育ちは富山県の新港の曼荼羅寺っていうお寺なんです。

IG:　ああ、そうですか。

KF:お寺は大きいんですよ。これは加賀のね、百万石の前田家の直参の寺という由緒あるお寺です。

IG:　ああ、そうですか。

KF:　それで、代々の住職はね、今までの所、学者がそろっていました。

IG:　ああ、なるほど。

KF:　寺の格式が良かったんでまあ東京から選ばれて行ったひと多いんですよ。そういう関係上私の師匠に弟子が沢山おりますがね、東京の人間がおり、横浜の人間がおり、飛んで宮城県仙台の人間がおり、又石川の人間がおるというように。。。

IG:　ああ、全国から。。。

KF:　全国から集まっています。

IG:　それで、お生まれになったのは。。。

KF:　東京。

IG:　千九百。。。

KF:　千九百六年の三月一日、ただし戸籍は十一日に。

IG:　ああ、なるほど。それで学校の方は？

KF:　学校は東京の大正大学。

IG:　ああ、大正大学ね。

KF:　仏教大学です。

IG:　それで先生ハワイ来られたのはいつですか？

KF:千九百三十一年、昭和六年ね。大学卒業した年に管長の絶対命令でこちらへ向けられたのです。あの頃はね今頃の各宗の開教師さんと違ってハワイへ行ってみたいから何とかしてくれって言う訳じゃいかなかった。

IG:　そうですね。

KF:　嫌だと思っても管長命令は絶対的なもので。

IG:　絶対命令ですね。

KF:　それに絶対的に服従しなけりゃならなかった。

IG:　なるほど。それで、最初は。。。

KF:それで最初はホノルル別院に二年何ヶ月か、約三年おりまして。それからエワに変わりました。

IG:　ああ、エワね。

KF:　エワでもホノウリウリとエワ耕地の角にありました。お寺と学校がありました。

IG:　ああ、学校ありましたね。

KF:　あそこに満六年おりました。それから、やはり上からの命令でマウイのプウネネに変わりました。

IG:　プウネネね。

KF:　今プウネネのお寺ありませんがね。

IG:　ああ、あの頃あったんですね。

KF:　耕地から人間が全部出されちゃいまして、カフルイの方へ変わりました。

IG:　カフルイへね。

KF:　で、カフルイにお寺を移転しました。あの頃はプウネネは盛んでした。

IG:　ええ、あれは、ハワイ一の大きな耕地でしたね。

KF:　何と言ってもキューバに次ぐ大シュガープランテーションで。ハワイでご存知のようにプウネネが一番大きくてそれからエワそれからコハラかね。

IG:　コハラね。あの時に１０万トンなんですわの、プウネネだけでしょうね。

KF:そうそう。それでプウネネに変わったのが千九百四十年ですよ。九月。それであくる四十一年、一年三ヶ月、プウネネにおったのは。十二月七日どかっと来たでしょう。文句なしにアーミートラックに乗せられた。自慢じゃないがいの一番に。

IG:　いの一番ね。

KF:ああ。だからどこへ連れて行くのかと思ったらワイルクの監獄までね。ブラックアウトでしょ。ブラックアウトの中をビューッと走っていって「ここで停まる！」って。ギーッと開けた。「はてな？」と思ったら、そのドアー開けた瞬間にわしネクタイもベルトも時計もタバコも全部取り上げられちゃった。

IG:　はあ。

KF:　ひどいことになったなあ。誰の命令でこんな事するのかといったら、たった一言ミリタリーのオーダーだって。

IG:　ああ、ミリタリーの。軍命令ちゅう訳でね。

KF:　で、わしゃ、いの一番かと思ったら、話し声聞こえるでしょ。「裏に誰かおるぞ」って。誰かなって。「ああ、今村君か。」ワイルクの今村君。[今村蹄全　浄土宗開教師]

IG:　ああ、今村さん。

KF:　「ああ、藤花君か」「君、いつ来た？」「近いから一足お先に入りました」って。

IG:　ああ、なるほどね。

KF:　そうするとガードがね、「へい、ノートークジャパニーズ」[No talk Japanese 日本語を話すな]

IG:　ああ。

KF:「今村君、これ、日本語で話しちゃいかんそうだから、ブロークンイングリッシュでやるかね。ブロークンイングリッシュでやりだしたら、「シャッタップアップ！」[Shut up!　黙れ！] ときたでしょ。結局しゃべれないずくで、南京虫に皆刺されながら一晩明けたら、十二月八日、日本人全部で頭数四十七人。ははあ、これ、昭和の四十七士なりと。

IG:　なるほどね。

KF:　とんでもない所で妙な威張り方をしたが、面白くないからそういう事をごてたわけ。それから毎日毎日のように三人増え、五人増え、時には十五、六人増え、というのはマウイだけでなく

てラナイから引っ張ったのも入ってくれば、ホノルルから漁にいった、新聞みたら、きのうのどっちかの新聞にさらえつるいち[更江鶴一　ホノルルの漁師]という人が、あれなんか、ホノルルから漁してマウイ、いやラナイ行とった。で、こちらに、ホノルルかマウイか知らんが、戻って来ようとした時に待ってたガードが「ちょっと来い」と言ってつまんできたんだ。

IG: ああ、なるほど。

KF: それが我々のいる監獄ぶちこまれた。だから増えるわけですよ。

IG: それがまたホノカワイ [Honokawai, Lahaina]もあるんですよね。

KF: そうそう。それからまた監獄が小さすぎるんで狭くなりすぎちゃって、監獄のヤードに天幕小屋をつくって。一つの小屋に５人づついれて。随分増えましたよ。

IG: ああ、なるほどね。

KF: そのうちに、年が監獄の中で明けまして、三十二年 [四十二年の間違い？]の二月二十二日は、忘れもせん、大統領デイ[Presidents' Day] に急に出発命令、移動命令で、仕方無しにアーミートラックに乗ってジャーと走ってついた場所はカフルイの桟橋。そこで船が着いてました、島通いの。乗ったところが、ハワイ島で捕まった連中、殆ど火山におったんだそうですね、ハワイ島の。

IG: ええ、火山のキャンプにおったんですね。

KF: それが皆おる。「やあ、君もおった、二世のくせに。めちゃくちゃだよこうなっちゃ」言いながらしばらく話しているうちに、ボーッと船が出た。

IG: 出た。

KF: 船がジグザグに行くんですよ。でも早かったですよ。

IG: ああ、そうですか。

KF: 昔は、ホノルルを晩の９時に出るは、カフルイ着くのは朝の７時ですかね。

IG: 明くる朝だったものね。

KF: それが、ジグザグにあちいきこちいきしながらも早い。５時間ぐらいで着いちゃった。

IG: ああ、えらい早かったですね。

KF: で、夕方ホノルルに着いて移民局のかいこ棚に二晩。それから三日目にサンドアイランドに送られて。今のようにサンドアイランドロードなど無かった。船で行くんだからね。サンドアイランドで何週間かおりまして、そのうちに、又、急に、全々予告なしなんだから。すぐ出発だーって言うんでしょ。「今度はどこか？」って行く先何も言いません。見ると大きな船が向こうに見える。そこまでまた小さな船で運ばれる。それがホノルルで捕まって同じ我々と同じ十二月七日にホノルルで捕まった人たちをいっぺん第一回の船として送り届けて空っぽの船こっち戻してさあ今度二度目を積もうと。その二度目にわし等は積み込まれた。それで着いたのはサンフランシスコの湾内のあのエンジェル島 [Angel Island, CA]

IG: 名前は良いが。。。

KF: 名前は良いが監獄島ですよ。しかし、良かったなあそこは。気候がねホノルルのように暑くないでしょ。涼しいでしょ。これは良いぞと。これなら居ごこちが良い。言っとったところが、食事時来たら、「レベレンド　ふじはな」ときた。「えい、K-Y-O-D-O ふじはな」きょうどうと読めないの。「えい、K-Y-O-D-O　ふじはな！」「イエース」「カム、カム」[Come, come. 来い、来い] どこかと思ったらキッチンへ引っぱてって。クック[Cook 料理] せいって言う。

IG: アッハッハッハ。(笑い)

KF: それというのも、サンドアイランドでドイツ人がやっとたクックのね手伝いを、さすが我々も黙って食うわけにもいかんから、お前らに自治生活をさせる。けれども必要なものはサプライするかわりに自分達で全部こしらえろ。そういう命令を始めから受け取った。だれもやらんでしょ。で、仕方無しに私と東洋劇場の竹間君 [竹間正行　東洋劇場支配人] の二人がかってでて手伝いしたんですよ。ところが、メニューは全部軍隊式でしょ。やったことないもの。しかし、習らいながら、やったり。字引見ながら。字引いれてもらって。やっておった。その、継続が。。。

IG: 米本土までいったわけ。

KF: エンジェルアイランドまで。それから、送られたのは最初はオクラホマ州のフォートシル。[Fort Sill, OK]

IG: フォートシルね。

KF: これ、竜巻の名所だ。幸いに大きな竜巻来なかったけど。そこで例のハワイ島コナから出た床屋さんの大島 [大島兼三郎　ハワイ島カラケクアの商店及び自動車業]っていうのが殺された。これなにか胸にもやもやしたものあったんでしょう。あのバブワイアー[barbed wire 鉄条網]張り巡らしたフェンスに１０フィート以内に入っちゃいかん。厳命があったにかかわらず、フラフラーと散歩するようなかたちで歩いてひょいとフェンスに手を触れた瞬間に撃たれたんだ。私は例の今言ったチーフクックやっとった。選ばれてね。最初にヘルプしたのは私と竹間君でしょ。両方に分けて。人間があんまり多すぎるから二つの部隊に分けようって。ひとつの部隊のチーフが竹間君で、一つの部隊がわし。皆素人ばかりがボランテイアでクックになってもらって。一組５人づつになりました。私が肉きり包丁をもって、衣をつけ、数珠をかける手にそんなもの持たないで、シャープな包丁持って盛んに肉を切っておった。２５０人前の肉を切るって、肉どのくらいあったか分りますか？

IG: それはたいへんだね。

KF: 普通の牛だったら四半頭いる。一匹のクウォーター。

IG: ああ、四分の一の訳ですね。

KF: そいつをね一人で、チーフクック一人で切れって言うんだ。他の手伝いのクックに切らしたら、大きい小さいで皆に当らんて言う。チーフクックなら上手に切ると思ったんでしょ。チーフクックがずぶの素人ですよ。

IG: まあチーフクックという名前がついた以上もうあんたエキスパートですよ。

KF: と、思ったんでしょう。それでサージェントが側に付ききりですよ。 血だらけの肉切り包丁持

ってる時に、ダダダン、ダダダン、飛び出てみた。そしたら、例の撃たれて犬殺しに殺された野良犬然としたかたちで、哀れな姿で横たわっている。それが現実に見せつけられたいの一番の情けない姿でしたね。他のキャンプからもそれに似通ったニュースが入ってくるんだけど、現実に見た目じゃないから。

IG: それが初めてよね。

KF: それから、やはり、そう、マウイ島のプウネネから出てくる郵便配達をやっとった何とか言うおっさんね。[中村幸吉　ワイルクの郵便集配人？] たいしてそう勉強もした男じゃないんだが、まあ小才がきいて人間の名前ぐらい読んだか、で、郵便配達やり、同時に領事館の取次ぎやっとったいうんだ。それでぶちこまれたんだ。人のいいもんでしたがな。それが、ネクタイの中に何か隠しておったんだ。ひとつ。タバコの一本も隠したかどうか知りませんが。それがわかっちゃって、裁判ですよ。キャンプの中の特別裁判がある。そして、一週間タバコを禁ずる。そのうちに、さっき言いましたように、監獄入るのにタバコも何も取られちゃったでしょ。売店が出来まして、タバコなんか自由に買えるようになった。だから良かったんです。ちょっとしても厳罰ですよ。

IG: なるほどね。そうするとその裁判の判事は誰ですか。

KF: かってに兵隊が連れてくるんですよ。

IG: ああ、なるほど。

KF: ヘッドクォーターから。

UN: 白人ですか？

KF: ええ、白人。

IG: インターニーの中からじゃないわけですか。

KF: インターニーの中からいったら誰も来やしませんよ。

IG: そりゃそうよね。だから、外部から連れてくるわけよね。

KF: おもしろいのはそれから、急に移動命令、ルイジアナ州のキャンプリビングストン[Camp Livingston, LA] 行きました。我々はどこへいっても体の検査がとっても厳格なんですよ。 病人だすまいと思うんですな。有難い。その時だけはインターニーの中にドクター沢山おるでしょ。

UN: 誰がいましたか、ドクターは？

KF: ドクターたかはし[高橋徳衛　ホノルルの医師]、マウイのドクターおおはた[大畑誠一　マウイ、パイアの医師]、うちのドクターきむら [木村秋男ロバート　ホノルルの医師]。キャンプデスクはドクターおおた。いや、沢山おりましたよ。また沢山おった。ところが外からくる軍医大佐がおってね。始めインターニーのドクター連中が皆の体調べるんですよ。で、私の番が来たところが、血圧を調べてね。「おかしい」って。オンリー８６。エイティシックス。どういうんだろう。そしたら、わしが聞き直したら高いところが８６しかないっていうんだ。低いところはなんぼとか言いましたな。

UN: ５０ぐらいですか。相当低いですな。

KF: そのヘッドクオーターから来たグリーニッチ大佐がね、変だって。ジャパニーズのインターニー同士がいいかげんなことやっている。何か目的があるに違いない。今度はわしが測ろうっていうんです。軍医大佐が測ったんです。白人が。”Funny kind” [おかしい] やっぱりオンリーエィティシックス [only eighty six 。８６しかない]そこをドクターたかはしがつっこんだんですよ。ドクターたかはしは第一次ヨーロッパ大戦に捕虜の経験があったからね。だから一人落ち着いたもんですよ。英語は出来るし。ドクターたかはしが白人のドクターにつっこんで、「お前はゼネーバーコンベンション[Geneva Conventions] の条約、皆頭で覚えてるか？」「知らん」ウオープリズナー[prisoners of war] と別にシビリアンインターニーズ [civilian internees] の扱い方、それにはシビリアンインターニーズは健康に必要なものは何でもサプライせないかんて一ヵ条があるのを知っているかって。

IG: つっこんだのね。

KF: さあ、そんなの知らんて。さあ、それから、通訳を通じてドクターは、「あんたはレベレンドだそうだが」「はあ」「チーフクックやってるが、朝何時に起きるか？」「三時から起きなきゃ仕方が無い」ハードウォーク[hard work きつい仕事] だって。随分痩せてました。もう、暑いのにね、がんがん石炭をたくんですよ。その前で朝三時から起きてハードーウォークですよ。食べ物通りゃしません。痩せてひょろひょろになってる。ときに、どういうものが好きだったか。あれがすきこれが好き。これは飲んだか[「これ」といってお酒を飲む真似をする]。　これは少し飲んだって。少し日にどれくらい飲んだかって。話相手があればハーフギャロン　ワンタイム [half gallon one time　一度に半ガロン]。それじゃ少しじゃないじゃないか。それで大笑いした一こまがありました。じゃあ、こりゃどうしても入れんけどいかんぞって、ドクターたかはしが言うたんで、じゃあ、初めから全部入らんでもせめてパセンテージの少ないアルコールをね。ビアー [beer ビール]くらい入れる骨を折ろう。一週間くらいたったらビアーが入ったですよ。ああ、皆喜んだ、喜んだね。この抑留キャンプで我々がビアー飲めるってこんな有難い事あるかね。わし一人じゃなくて皆んなに配給があるでしょ。そうすると飲まない連中は飲む連中にキュウポン[coupon] をやるんですよ。さあ、ルイジアナの松林がある。松の下で急に宴会が始まるというかたちまでありましたがね。で、飲みすぎちゃって胃潰瘍を起して手術したって、ある学校の校長まで現れてきた。

IG: ああ、なるほど。

KF: それが副作用。

IG: それじゃ、その血圧がエィティシックスというのはどうして下がったんですか？

KF: これを全々やらんでしょ。[「これ」と言って飲むまねをする]

IG: やりつけておったわけ。

KF: ええ、毎日少しやった。少しはどのぐらいかって。話相手があればたいていまあハーフギャロンあればイナフ[enough 充分]。そりゃ少しじゃないじゃないかって事からおかげで私が何処へ変わっても私の行くキャンプには必ずビアー。

IG: それじゃあなたのレコードにはこのレベレンドには酒を飲ませよという。。。

KF: だから他のキャンプからきた連中は、あれこのキャンプには贅沢にビアーが有るぞって訳さ。ビアーが入る、それからワインも少し入りましたね。だから、戦争終ってからこっちに戻って

から、あの商業時報のつちやさん[商業時報社の土屋精一]もね。あの雑誌に書いたことあるですよ。私のおかげだって。そうかっていうことになって。それまで、誰も知らなかった。まあ、これはエピソードの一つです。それから、ルイジアナからテキサス[Crystal City, TX] へ変わったんです。

IG: テキサスへね。

KF: 暑いの暑くないの。

IG: また暑いですよね。

KF: 部屋の中が１２０度。一歩外へ出れば１２５度。暑いも暑い。どれぐらい暑さか。これは口で温度の数字をいうよりも、暑いから樹木が全々繁茂しない。あるのは細いひょろひょろうらなりみたいなシャボテンだけ。

IG: シャボテンね。

KF: そのシャボテンが昼間真っ黒なんですよ。

IG: そりゃ何故ですか？

KF: 夕方になると、涼しくなると、きれいなみどりになるんですよ。その黒いというのはハエが暑くて飛ぶ事できない。影を求めてほんのささいな影、ひょろひょろうらなりのシャボテンにじっーと停まってる。で、黒く見える。涼しくなると飛び立っていく、餌を求めて。そうするとグリーンになる。１２５度というのはああいう暑さですよ。

IG: 酷いですな。

KF: ええ。で、まあ、窮すれば通ずる。誰かどっからかルートを経て手に入れたのがキャスターオイル[castor oil　ひまし油] をとるビーンズ。その種を蒔いてみた。これは当りましたね。半年もたたんうち全部殆どオーバーに言えば大木ですよ。キャンプ中が涼しい場所になりました。ところがそこに行った頃には始めて家族キャンプ、家族の者が来ました。テキサスでは。

UN: 奥さんも？

KF: ええ。ずーっとあちこち送られてようやく来ました。そうすると我々チョンガー組はクックしなくても良くなったですよ。これは有難い。けれども今度はギャッベジ [garbage　ゴミ] を集めなくてはいけない。ギャベッジ部隊がいるんだって。また誰も出ないでしょ。仕方ないからまた私例によって例のごとくね、ボランテイアに出たですよ。どうしても三、四人出てもらわなきゃ。それであてがわれたものてっもダンプトラックとかいうジャンク（(？)）昔したようにハンドルだってダーッてやらんとエンジンが動いていかんでしょ。そいつにキャンプ中を走り回りながらギャベッジを集め、ゴミを集め。

UN: そういう作業をやった人には何か報酬がありましたか？

KF: 何もありません。後になってこりゃあんまり酷いから、一日になんぼか、３０銭か、タバコ銭。やってました。その内に家族キャンプだから子供ら集まってきました。こりゃ学校教育せないかんて。で、学校建ててくれって言ったら、うん、と言わん。結局は材料入れてやるから、組み立てるのは、お前らが手で大工仕事やれって。よしきた。我々衣を着る人間が血だらけの肉切り包丁もって、こんだ、持ったことないハンマーや鋸を持って、大工仕事やって、簡単に出

来たですよ。

IG: にわか大工やったわけ。

KF: ええ、そうしたら、南米ペルーあたりから来た連中がね、馬鹿にいばりくさっとったんだ。ろくにそれこそ便所をね、どっちむいてかけるものか、それも知らないんだ。程度低いですね、南米は。たいていは腰掛ける所へ上がってね、やるんですよ。それから、気の利いたのは逆に、日本で言ったらきんかくしちゅうでしょ、あれ式に便所の蓋をね、前に向けてやるんですよ。そういう連中ばかりだった。で、いばってんですよ。

IG: ほう。

KF: それから、もっとたちの悪いのは、ハワイから勝手に飛び出してってアメリカ大陸で生活している大陸ゴロというやつです。これらが威張ってしょうがなかった。いよいよ子供らの教育を始めるのに先生がいる。で、誰かその先生の資格のある者を、笛と太鼓こそ鳴らさんけど探しまわったら、ペルーにはたった一人、よぎという沖縄県出身のね、先生が一人おりました。たった一人。大陸出は本願寺の開教師が四人ばかりおりました。で、日本学校の生徒、生徒が３５０人もおったですよ。テキサスで。

UN: キャンプ全体で何人いたんですか？

KF: 六、七百人はおりました。ホームグラウンドだったから。子供らだけで ３５０人。

UN: ペルーというのは、南米から集めてアメリカへ連れてきたんですか？

KF: ええ、そう。だから、また南米の連中にはまた子供がうんとうじゃうじゃおるんだ。そいで、先生を尋ねたらハワイメンだけですよ。九分九厘九毛までハワイメン、各宗の開教師はほとんど皆大学出てますでしょう。ハワイには一番また仏教開教師が沢山おった。それから、名前言えば、エワの日本語学校長やっとったいちばさん当りは日本で師範学校出てきてるでしょう。そういう人も何名かおったんだ。だから、こういう連中を集めて学校の先生。そうすると、ギャッベジなんか集めるのおらんぞ。そこで始めてシャッポを脱いできたんだ、南米ペルー組。大陸で威張っとった組。いっぺんで先生扱いよ。それまで、「えい！こんな汚いの、もっと集め集め。」汽車の中でクックしてる時なんか足でけってゴミだすんですよ。でも、虫を殺してゴミを集めてクックする。

IG: 南米組みですか？

KF: それは大陸メンでした。それから南米の連中は後に入ってきた。

UN: 年はいくつ？

IG: 年齢は？

KF: 子供はね小学校一年から 高等学校に届くまでの年齢の子供がおる。そりゃ沢山おるですよ。そうすると、学校始めると小学校一年生から、で、教科書ひとつもないでしょ。何とか教科書をって。それから、コマンダーに申し込んで、ガリ版のね。謄写版を入れてもらって。もう手分けして。

IG: 即席教科書作ったんだ。

KF: 教科書をつくる。刷る。私は漢文が得意だったから、漢文の先生っておらんのだ。

IG: ああ、そりゃそうだ。

KF: 先生、あんた坊さんだし、漢字ばかりのお経は得意なんだろうから、漢文をどうか。漢文は好きだ。じゃあ、全部もってくれ。漢文は小学校ありませんからね。中等科一年から高等科二年まで、全部。私だって教科書ないでしょうが。毎晩夜中までかかって、教案を作りましてね。そして、朝、教えにでたものです。今だに家に持ってますがね。あるはずですがな。まあ、そういう生活ではじめて汚い仕事をやめた訳なんです。それで、千九百四十五年の八月十五日にあまりかんばしくない放送を聴いて皆抱きついて男泣きに泣いた。

IG: 男泣きに泣いた。

KF: それからなかなか帰れない私は師匠がルイジアナに居る頃に「忍従せよ、再会を待つ」という電報を打った。半年ぐらいかかってその電報がついた。それみてから、矢も立てもたまらず、わしの師匠ももう八十に手が届く。しかも生涯独身で通して、わしを寝小便時代から抱いて育ててくれたんだから、どうしても、いっぺん帰って師匠に元気な顔を見せようと。それで、戦争に負けたけれども、わし行ったんです。簡単に帰れると思ったから。ところが、着いたら、どっこい帰れんでしょ。帰れないばかりか、その終戦の年の１月元日に師匠が満八十歳で死んだ後だったんだ。

IG: それはどうも。

KF: それから、涙ながらになんとかして、仕方が無い、目的がはずれちゃったんだ。途方こいて、元の場所へ帰ろうと、あちこち尋ねた。横浜にアメリカ領事館があった。そこいけって。行ったですよ。そしたら、ミスターニコラスという人がおりましてね。それからバーンズ。これ、あんたがたご存知でしょう。これは、日本宗教課のね、宗教デビジョンの二人が顧問だった。どっちも白人でしょ。弱ったな。こりゃ、ブロークンイングリシュでやろうかなと。ブロークンイングリッシュやりだしたら、ミスターニコラスが「あんた日本人だから日本語でやりなさい」と、（笑い）こりゃ、嬉しかったね。今迄あんた日本語話せる兵は、私は実はアメリカで生まれた日本人と違って、けど、同じかって。「私京都で生まれた白人の二世です」って！　それからミスターニコラスに話しているうちに、「ふじはなさん、あんた、一体今度の戦争でどっちが勝ったら良いと思ったか」って言うんですよ。嫌な質問だと思ったけど、何もう落ちるとこまで落ちてしまったんだ、くそかまうかって言う気持ちで言った。「ニコラスさん、あんたの場合だったらどう思うか」って、「やあ、分った」って。今迄大勢来ました、日本人が。あんたみたいにはっきり言った人始めてだって。「あんたの場合とわしと立場代わったらどう、やっぱりアメリカ勝てば良いだろうと思ったろう」と言うまえに、「分った」って。それが気にいったらしいんだ。それから、その上のバーンズに紹介する。すぐさま、こちらから連絡取ってあげるから日本の昔の放送会館、外務省があり、そこに宗教デヴィジョンのね、　モロー（(？)）が居ると言う。すぐ行きました。そしたら時間がオフで明くる日出直していきました。又同じ質問でしょ。今度はっきり、「わたしゃ、日本人だから日本が勝てば良いと思いました。」こりゃあ、気に入ったらしいんだ。よけい。それからバーンズとニコラスが一生懸命になってやってくれました。

IG: ああ、そうですか。

KF: そのおかげで、まだ、あんた、講和条約の講の字もでないうちに、ナインティーンフォーティナイン[1949 年] の忘れもせん、七月一日に国務省からすぐビザ出して宜しいときた。だから私が元アメリカの土地におったものでアメリカに戻った第一号ですよ。

IG:　ああ、一号ね。そうすると日本におられる間は何をあなたされましたか？

KF:　私は東京にね、今京都にありますが浄土宗の宗務所というのがあります。浄土一宗のヘッドクォータースね。宗総長がわしが明けてすぐ一月元日でしょ。四十二年 [四十七年の間違い？] 大本山増上寺, 椎尾の大僧正 [椎尾弁匡　第八十二世大僧正]、わたしの叔父ですから、行きました。そこへ来てましたね。「藤花君どうするつもり？」「これから帰りたいと思うが。さあ、いつになるのか分らん」「じゃあ、ここにおる間宗務所で手伝ってくれんか」って。で、いきなり、普通はねああいうところは子院から雇い、子院から入るのが順序ですよね。ところが子院から何等職といって、始めて主事になるんですよ。いちやく社会部主事にしてくれたんですよ。こりゃあ有難い。社会部主事だったら少しは小遣いもらえる。少しだけあげる、しかし、アメリカ戻るあんたがたにはタバコ銭にも足らなんか知らんが。宗務総長そのものが月に二百円だってんだ。あの頃一ドルが十六円になってました。

IG:　十六円。そうそう。

KF: あんたにもなんとか名前こしらえて二百円にするから、手伝ってくれって。そりゃ有難いって。二百円もらったけど何も買えんやせんのよ。女房子供三人かかえてるし。しかしまあ遊んでるより良いと思って。で、特にもうアメリカの空気を充分に吸ったんだから。ヘッドクォーターの連絡ね。主にやってくれって。それなら楽だって。

IG:　ヘッドクオータースと言えば GHQ の。。。

KF:　ＧＨＱね。分らん時は破れイングリッシュ。英語でやれば良いし。わたしの教え子の兵隊が沢山来てましたから楽なもんです。

IG:　ああ、なるほどね。第一生命の本部と交渉するわけですね。

ＫＦ:　そうです。そうです。だから　急にヴィザがおりましたから、すぐさま明日といわずに飛びたかったが七日間だけ猶予してもらって七月七日に船に乗って。なんとか出来た。来たところそれまではマウイのプウネネの主任というあれがあるでしょう。その責任者のままで東京におったから。でこちらもどってすぐマウイのあれを辞任しました。皆が薦めて本部におってくれっていうから。それから別院に住みついたまま今日までだったんです。だから長い開教生活で大部分はいわゆるはいりくの別院子ってのが（(？)）年寄りになっちゃたの。

IG:　そうねえ。あんたが一番長いかったから。

ＫＦ:そう。したがって原先生［原源照　ラハナイな浄土院］あたりご存知。仏教連盟の集まりがあると藤花先生一番生き字引だからあれどうなっておったかと。たいてい皆そういうふうになりました。

IG:　そうするとそのプウネネにおいている間にいろいろな苦労の経験がありゃしませんか？

ＫＦ:もうどこにおってもありましたな。それはもう開教師という生活はね。この間も原先生と話しとったんだ。原先生はハワイ来るまでこんなに骨の折れる仕事が開教師の仕事だとは思わなかったとおっしゃったものです。開教師の仕事は始めから終りまで苦労のしどうしだった。私の経験からも言えるがと申し上げたがどこへいっても苦労はつきもの。どういう苦労かちょっと言いようがありません。小さな問題から大きな問題まで。わしが日本におる時など夫婦喧嘩の仲裁までやらされたです。

IG:　ああ。

KF:　犬も食わんというか。

IG: その開教師又は牧師というものはやはりソーシャルワーカーであるべきというか。

KF: そうそう。

IG: そいう事になるよね。まあキリスト教では言いますよね。だから日本では知りませんけどもハワイでは。

KF: 日本とハワイではまるで違います。

IG: 違いますか？責任というものが。

KF: 違います。日本のお寺の和尚さんはね。大きなふぁとした座布団二枚しいて其処にほおずきみたいに座りこんでいればいいんだ。で好きな碁でもうったり。パチパチとね。檀家の者は挨拶に来る。ちょっと格式の高いお寺だったらね。一部屋下って、「やあ方丈さん」とか、「御前　さん」とか言って頭下げてくるですよ。こっちはそうじゃない。

IG: 「花と波」という映画があるでしょう。森繁久弥のね。

KF: こっちでは学校で教える子供なんかでも「へい、先生何処へいく」「今ちょっと手紙入れに行く」「じゃひらってって遣ろう」ピックアップ［Pick up］してやろうと英語でいうのを、ひらってってやろう言う。今度降ろす時に「先生、どこで落とそうかって」「おいおい落とされちゃ困るぞ」。まあそういう子供らの相手になり、大人は大人でね乱暴きわまる。とくにプランテショーンはね。

IG: そうそう。プランテーションはね。

KF: 言葉でやってくる。「へい、先生。今日何しとる」「何しとるて。仕事してるよね。」「今忙しいか？」「どうしたんか？」「俺の頼み聞いてもらんといかん」。もう頭からこれでしょ。

IG: ああ。なるほどね。

KF: まあ、一例をあげればそういう形の毎日がプランテーション。

IG: そうすると、戦前と戦後の開教師の生活というのは。。。

KF: ああ。雲泥の差が。

IG: 雲泥の差が。

KF: 大きな差。戦前はもう言うまでもなく。まあお金のことを言えば汚いようだが、しかしいくら宗教家でも霧を吸っちゃ生きられないんだから。ある程度必要な経済的のね、物がなくちゃいかんので。それが思うようにいかんという事が第一の苦しみでしょ。時間の制限がないでしょ。夜中だろうと何だろうと自分勝手に叩き起して「先生。どうも喧嘩が上手くいかん。何とかしてもらわんか。」仕方がない終いにわしゃ考えましたよ。洋酒をワンギャロン下げてくんでことにしました。それで喧嘩の収まらん時には必ず近所のものが入ってるんだから。「またやったか。よし」夫婦喧嘩犬も喰わんとはこれ一例ですよね。「俺ワンギャロンさげてきたから。いっさい理屈をやめて。どう、やめるか」こう見せておくんですよ。餌をね。

IG: ああ。　餌をね。

KF: やろうじゃないか。「ああ。先生あんなに言われるからやめましょう。」「よしきた。じゃあやろう」で、皆コップ酒ですよ。

IG: ああ。

KF: で、帰ってこないとなんぼでもしばられる。時間的に。まあそういう事どれだけあったか。でおもしろくなくても。ほやから自分達の子供が悪いのに、校長のやり方悪いから。一回こういう事がありました。今のお寺の学校のすぐ前が小高い山になっていて。けやび山。あんたご存知だろう。

IG：そうそう。

KF: あんなかで他の先生もおったから「校長先生おるか！」「ここにおる」「ああ、そうか」「校長不行き届きだ」って。「なんだやぶから棒に」「この前のけやび山で皆集まってタバコ吸っておる」「小学生がタバコすって黙ってるやつがあるか」「外まで俺責任がないんだが。仕方ない。気をつけよう」それから明くる日。どうもそうぞうしい。がさがさ聞こえる。わきから回っていってみたところが、なるほど吸ってるわ。

IG：まあ。子供がね。

KF: シガレッツ吸ってるやつがある。ドロウモウ巻いて吸ってるやつがある。でその張本人をつかまえたんですよ。そしたらわしんところへ文句いってきた親父の息子だった。

IG; アッハッハッハ（爆笑）

KF: 名前いってみ。にたに (二谷？)ってんだ。広島県の。さあそれからその親父は頭掻いたきり「もう先生こんな事は密告はせん」って言うんだ。（笑い）

IG: なるほどねえ。

KF: そういう面白い事はよけいないんだって、嫌なことばかり聞く。ま、ホノルルにおってもマウイにおってもね。そこはまああなた方のご想像にまかせます。

IG: ええ。

KF: 良いことはほとんどありません。

IG: 夫婦喧嘩の仲裁もなんですが、今度なんすね、結婚の媒介もやるんじゃないですか。

KF: これも良くやった。その結婚の媒酌だってねスムーズに行く事めったにないでしょう。

IG: なるほどね。

KF: 昔のひとはね嫁もらいにいくと嫁の親が一番困るんだ。うるさいんだ。息子の親は簡単なんですよ。「先生。どこかそこらで口聞いてください」て昔の人はね。「そら、宜しいよ。好きなもの出来たかね」「うちのボーイがね。わしから見たらうちのボーイはわしに似てとは言わんけどすこしは見てくれの良いボーイなんだが、よりによって変な出臍みたいな顔の娘が好きになってね」なんとかしてくださいいうんだな。はっきりした話。「何処かい」って。「ワイパフ」俺全然知らん人間だって。きよひろ（清弘？）って言いましてね。魚の行商やってた。

IG: ああ行商やってた。

KF: あんた知ってるか？　あれ、あんた知ってるか。じゃ二人一緒に行こうって。ワイパフ行ったで

すよ。何貰ってもらえば嬉しくってしょうがない。あんなへんてこりんな、あんな出臍のできそこないみたいな。だれが貰うもんか。それが嫁の親父が昔の悪いくせね。日本人の。すったもんだ。なかなか「うん」と言わん。で、ひとつの方法として魚を用意して持って行っとった。お酒と。まあ名前を言いましょう。やまぐち（山口）ってんだ。嫁の親。「山口さん。用意して来たんだが、あんたうんというまでは口つけんぞ」この親父酒好きなんですよ。ここまできてんだけれど飲めないんだ。十二時まで、夜中の十二時まで。夜の八時頃から十二時までがんばって。「山口さん、あんたどうしてもうんて言わないんなら、持ってきたが持って帰ろうよ。」((？))さん帰ろうかって。「先生、ちょっと待ってください。なに。十二時過ぎまでそんなに頼んでくださるなら」「うんていうか」「へえ。出来ちゃおらん娘だけど」とこう言うんだよ。　で簡単に結婚式いっちゃった。

IG: やれ戦前はね。そういうようなしきたりがありましたね。見栄をはってね。それから商工会議所の会長等お願いなど。わたしも選考委員になってね。

KF: どうしても三回行かなくちゃね。

IG: ああ。いっぺんじゃね。二へんじゃなかなか。

KF: 自分はなにしたくてここまで手がでてるの。

IG: 会頭はやりたいんですよ。それだのにもったいぶって。

KF: なかなかうんといわん。あれ日本人の悪い癖だね。

UN: じゃあ、ノーですね。じゃあ、やめなさい。

KF: そうしたらあわてるだろう。

UN: いや、待ってくれって。

KF: だからこちらがせっかくなかにはいったものをね。出来る事なら丸く治めたいと思うから虫を殺している。そこをつけこんでなかなかうんというてくれんから困る。ははは。（笑い）

IG：それでなんすね。皆浄土宗でもそうだがお寺じゃなんですね。寺のとこが学校の方を兼ねてるわけですよ。

KF: ええ。そう。

IG: 学校の方じゃ何かいろいろあったでしょ。

KF: やあ。ありましたよ。私はもう昔ね四十七年前になりますかな。始めてハワイに来てすぐ別院の生活始めたでしょ。あの頃ハワイ女学校って経営していたでしょ。

IG: ハワイ女学校。そうそう。

KF: あの頃各宗別院の付属の学校でもハワイ女学校といったらちょっと評判が良かった。

UN: そうそう。カカアコにあったんですか？

KF: ええ。カカアコからマキキへかわってから、ビショップ福田の時代。特に教科書は東京の淑徳高等女学校の教科書。

IG: ああ。立派なものですね。

KF: でそのうち男子部を設けたら、男子部の教科書は芝中の教科書。どっちも程度高いでしょ。それで入学試験までやって入れたもんですよ。その頃に、これはまあ名前言えませんがね、カカアコのハワイ女学校時代からマキキにかわって学務委員長やったあるおっさんがおるんだ。私が担任やるまで相当いいところ、級長か副級長やらしておったんだ。私が担任になってからなんでこんなに出来もせんやつ級長、副級長、あるもんかって、ガタンと落としたんですよ。その親父、学務委員長。「藤花先生」「はい」「わたしゃね、ずい分一生懸命お寺のため学校のため尽した積もりだけど、先生がうちの娘の担任になられてからガターッと落とされた。家の子こんなに出来ませんか」って。そう数字に表れたとうり。通信簿にマークつけてあるんだって。その現れたとうりの数字の順で一番から席順を決めていっている。どこが悪いかって。頭かきましたよ。そういうのがあった。こりゃ一人じゃありません。

IG: そりゃそうだね。
KF：　そりゃ何人も何人もあった。エワに変わってからは特にひどかったですよ。
IG：　エワの方はね。よほどポリテイックスがあったものですね。

KF:　エワにかわって田舎のね、お寺は学校の重役をやらなかったら開教師たっていけなかった。実際の話。

IG: あの頃のね。。。

KF: 開教師の月給問題でも出たら。。。

IG: そうそう。

KF: 校長の月給問題でも。。。あああ。。。とこうなっちゃう。

IG: 結局学園長にでもなればその、そのところ、日本で言えば村長みたいなもんで。。。

KF: そうなんだ。

IG: 絶対権利持っている訳よね。

KF: わしの先代が山口［山口隆戒　エワの主任開教使]って言ってね。しまいに排斥くらってね。追い出されるばかりになっとった時にあのビショップふくだが「山口くん、君、のろしがあがらん内に体裁よく辞表出したまえ」って。で山口さんは傷つかずに日本へ行って、里のお寺、正覚院て良いお寺があって、外国におったってんで、まあ日本の人箔をつけてみてくれて。其処へ行って生涯終わりましたけどね。これがまあ私が行ってみたらとんでもないやつが級長副級長でしょ。一番二番でしょ。一生懸命親が働いて苦しい中から貧乏人の子沢山で全部学校へよこしてんでしょ。頭は良いんですそいう家の子。

IG: 確かにね。

KF: それが皆ローマークでしょ。おかしいぞ。だから徹底的に試験を重ねてね。間違いなしというところで全部席次を決めちゃったんですよ。

IG: ああ。ぜげんし（(？)）

KF: やられたですよ、わしゃ。父兄からも。たたかれほうだいだったな。

IG: だいじないんやね。

KF: もう臨時総会を開きましたね。「校長先生にお尋ねあります」「何ですか」「家のボーイはこんなに出来ませんか。先代校長はずーっと何年間と続けて家の子は優等生。女の子も同じ様に」ところがもう一つ悪い事にわしが子供らをあのおかしなやまんじ校長（(？)）どんな教育をとっとったかそれを訪ねる為に作文の時間に皆思って好きなように書けって、先生これマークつけないよって。皆どういう気持ち持ってるか調べたいと思うからって。“もし日米戦わばって”こういう題をだしたんです。

IG: なるほど。

KF: 小さいものは小さいもののように書く。題を説明してから。大きいやつは説明せんでもちゃんと書く。八割まではね私らは日本人の子供だからいざ事あれば日本のために働きます。これが八割まで。

IG: ああ。なるほどね。

KF: 後二割はしっかりしてましたね。しっかりした二割は貧乏人の子供ばかり。我々はアメリカの土地に生まれた。我々の祖国はアメリカです。アメリカのために尽します。これがたった二割。

IG: 二割ね。

KF: それで良い成績貰っとったやつらが八割。日本のため。そしたらまた例によって臨時総会だ父兄総会だ。後は私ぎゅうぎゅう絞られました。先生あんた一体何処の人間かって。わたしゃ日本人だって。馬鹿げた話よ。前校長は目の玉の黒いうちは日本人だ。こういう教育をしてくれてわしら喜んでおった。先生目玉黒い。日本人の癖にアメリカに尽せとは。わし全部赤インクでお前の考え間違っている。全部書いたんですよ。それを親に見せたものだから大変。臨時父兄総会になったんだ。だから私は考え違う。それだったら日本の学校で教える教授法だって。

IG: そうだ、そういうことになるね。

KF: 私はアメリカの土地に流れてきた。ここのアメリカの土地で例えわずかでも給料貰ってアメリカの品物を食べて生きてんだって。私の籍は日本だけども教えている子供は全部アメリカ人だって。アメリカ人を教えるには先生が日本人であってもアメリカ式につぎこまんけりゃいかんと。これわしの主義だって。あんたがたそんなにやかましくいうんだったらわし今すぐでも帰るよ。わしは戻る場所があるんだから。別院があるんだからって。こんな所来たくて来たんじゃない。

IG: ハッハッハッ。（笑い）

KF:　さあ、待ってくれと。それから欠席してる父兄も全部集めて。先生はこういう事だって。幸いにあの時の学務委員長、後藤さんご存知ないか。死んだけども。ジミーふくしまっておった。あれがちょうど学務委員長だった。これで助かったんですよ。これは発明家でもあるし、もう政治方面は大好きで飛び回っておった男。あんたがたぐらいの年配だったな。

IG: そうでしょうね。

UN: うしじま？

KF: ノー。ふくしま。ジミーふくしま。これは熊本の人間で。これが皆の前にたって。学務委員長で

あるし。プリンシパル[principal 校長先生] は本当だ。プリンシパルのいう事良く聞かないんだったら、わしも学務委員長やめると言い出した。そしたら皆「やあやあジミーさん、ジミーさん、あんたそういう事言わず。それじゃもう大喧嘩になるから、じゃあ、この場におさめてもらいましょう。」

UN: そのころキャンプの人たちは日本に帰るという意識はもってたんですか？

KF:　だから子供を日本式にと。いうけど子供らはそうじゃないんだから。だから生まれながらにしてアメリカ人でしょ。

IG：それで日本のために尽せよという教育をした日本語学校の先生はよほど少数だろうと私は思います。

KF: そうそう。

IG: ずっと私も日本語学校そのコナでも八年、それからハワイ中学校でも三年、１１年間日本語学校に通いましたけどひとりもそういう先生には教わりませんでしたね。だから大抵の人は無口ですね。その問題については触れないです。

KF: 触れないです。

IG: 触れないですね。それだけれどもとくに教科書がここでもって編纂されるようになりまして、忠君愛国というものはアメリカに対してアメリカのために働くという事が忠君愛国であるという。

KF: 昭和の元号で言えば、昭和３６,７年の頃だ。あの頃はルーズベルト大統領が日本に嫌がらせを良くやったころでしょう。だから雲行きがだんだん怪しくなっているころだから、どういう考えを持っているか一度調べたかった。

IG: ナインテイーンサーテイ[Nineteen thirty 1930]

KF: サーティフォーからフォーティ[３４年から４０年] までおったから。もう人知れぬ苦労を皆、各宗の開教師はやってきましたね。わりあいに恵まれたのはクリスト教の牧師さんですよ。戦争が始まってもインターンされた牧師はごくわずかだった。ほんの数えるほどだった。

IG: そう、やはりキリスト教の牧師さんは、やはりキリスト教でキリスト教がアメリカの宗教であるという事で。。。

KF：　そうそう。

IG: 抑留されなかった。

UN: ですからね、ある意味でこの太平洋戦争は一種の宗教戦争だといってましたからね。宗教戦争だと。

IG: それで私の知っておるアイエアの人でね。こりゃ本願寺の信者だったけれど、兄弟三人本願寺の信者だったけれど、ポカット宗旨替えしましてね。キリスト教になりましてね。

UN: 戦争になったから？

IG:ええ、戦争になって。それだけど後にこの人はこのハワイ州議会に出る候補者で出ましたけどね。やはりつまりませんでした。落選しましてね。その人の何ていいますか。。。

KF: 昔から日本で言うこうもり。。

IG: こうもりであれを知ってましてね。それだから、ただ人の顔色をみてこの人はどちらに投票するかというような事、自分の信念にもとずいてやっていかないという。

UN: そういう収容所で終戦を迎えた時に泣いたということだけれども。収容所で終戦を迎えたわけでしょ。その時に残念がったわけでしょ。

KF: ええ、そうですよ。そりゃもう最後までとても勝てないとは覚悟はしてました。はっきりラジオを聴く事を許されなかったですよ。

IG: ああなるほどね。

KF: ラジオをね長距離、ロングウェーブだけ。だから国内。

IG: 長波だけ。
KＦ:長波だけ。短波聴けないでしょ。

IG: 日本からでもとれるからね。短波はね。

KF: ところが器用な人間沢山捕まっていますからね。長波のラジオを聴くことだけは許してもらったでしょ。かんたんに短波聴けるように直すんですよ。だから昼はどうどうと聞くわけにはいかんが、夜「おい、今晩俺のバラック遊びに来んか？」って言ったらその短波ラジオを聴きに来いって。始めのうちは大本営発表でございますていうやつが良く入ったものですよね。聞くとこちらで新聞やラジオでアナウンスしてるのとまるで違うでしょう。極端なのは戦争始まってまもなくだった。あのミッドウェイ大海戦あったでしょ。

IG: ええ。ミッドウェイの海戦。

KF: あの時の大本営発表は面白いですよ。我が方もある程度損害をうけた。

IG: ある程度ね。

KF: ある程度。だが敵軍に大衝撃を与えた。戦艦何隻を轟沈したとかね。そういう景気のいい放送ですよ。

IG: まるで逆やね。

KF: 逆。それからまもなくだ。ミッドウェイで捕まった連中は、日本の海軍の捕虜は、どかどかとルイジアナへ来たですよ。ルイジアナでも驚いたけども。ところが口が堅いですね。何と言っても口を割らん。で我々シビリアン[civilian 一般市民] とウオープリズナー[war prisoner 戦争捕虜] と別にしてあるでしょ。ところがウオープリズナーが、日本の捕虜がね、やっぱり人間だからね、病気するでしょ。そして白人の軍医が行って調べようとしても手を振って診てもらおうとせん。我々は鬼畜の、平気で日本語ですよ。後で鬼畜って何かってドクターおおはたに聞かれて困ったですよね。

IG: ハッハッハッハ。（笑い）なるほどね。

KF: 鬼畜の医者に診てもらわんと。診てもらうなら日本人の医者。ジャパニーズの医者って。しょうがないからインターニーの中から代わり代わりでる。ドクター大畑がいく。ドクター木村がいく。

高橋がいく。始め皆聞こうとするんでしょ。なかなか口を割らん。しかし病人は増える。治らん。で代わりがでるでしょ。丁寧に診察して薬でもやるとやはり情に負けてちょっちょっともらすんだね。

IG: なるほどね。

KF: それつぎはぎすると立派なマップが出来るんだよ。結論はね、ミッドウェイの海戦は大敗北だってことになっちゃって。こりゃ大本営発表大うそだろうてことに。それが始まりでしたな。

IG: なるほどねえ。

KF:それからもうどれもこれも皆大うそ。ある程度眉につばつけてから聞く。たまにははっきりした。戦争も終末が近づいたころにははっきりしたニュースをやってましたね。

IG: そうですかね。

KF: 短波でね。これじゃあ。おまけに原子爆弾ていう言葉はだしませんでしたがね。広島と長崎に特別の爆弾落ちたり。いっぺんに何万何十万でも殺す力があるっていうんですよ。これを二箇所続いて落した。

IG: それは日本には原子爆弾という名前がなかったんでしょうね。

KF: ええ。なかったか、でも例のノーベル賞の、あの湯なにかね。。。

IG: 湯川博士。ひらさかでね。((？))

KF: 研究しておったんだから。

IG: まだ完成してなかったからね。

KF: そうそう。

UN: 原子爆弾はあってもその時に原子爆弾という言葉使うと天下の人情不穏になるでしょ。だから使わなかった。だから特殊な爆弾といった。

IG: わざと言った訳やね。

KF: あのニュースがね短波で入った頃はもうこれは駄目だとあきらめておりました。しかしやはり人間ですね。千に一つ万に一つ。一縷の望みを捨てること出来ませんよね。

IG: そうそう。

KF:ところが、ガターンと落ちたでしょう。それでキャンプのなかは白人達は大喜びでがらがらがら。どっからひらってきたか桶のそこみたい、たいこみたいのもの叩いて大騒ぎで喜んで。これは完全に負けたわって。こりゃ我々日本人同士はね、男泣きに抱き合って泣いたですよ。こりゃ仕方が無い。

IG: そうですよ。あの時から帰化権でも与えてあったとしてもやはり日本で生まれたものはね感情的にね。あの、そうとね。抑留された時の持ち物はどうでした？

KF: 持ち物は着の身着のままで。

IG: 何にも持って行けないのですか？

KF: ええ。

IG: ダッフルバッグとかなんとかにひとつだけ許すという事はなかったですか？

KF: 捕まった日でしょ。何にも。私はたばこ吸いだから。今はようやくたばこやめましたが。いつもツーパッケジ、スリーパッケジ、ポケット入っているんですよ。で腰にウォルサム[Waltham 有名な時計メーカー]のぶら下げるのつけとった。ベルトしめて。“ハリーアップ、ハリーアップ[Hurry up! Hurry up!” 急げ、急げ！] て催促するから、急いでネクタイをしめて。それで出た。

IG: 着の身着のままで。何にも持たないで？

KF: それが夕方の四時ごろだったかね。まだ明るかった。先言ったようにわし一番にアーミートラック乗せられて。その次に日本語学校のまえはらていいちろう[前原禎一朗　プウネネの日本語学校校長] とそれから本願寺のみうらいしょう[三浦恵昭　本願寺開教師] いうようにずーとクラまで。いっぱいつめるだけつめこんで。もう真っ暗になりました。夜、灯火管制でしょ。　ブラックアウト。真っ暗の中をヘッドライト点けずに走ったから。めちゃくちゃですよ。どんなとこでもガッシャンでしょ。で最後ギギーッとブレイキ踏んで停めた場所が監獄の前。監獄だかなんだか分らん。真っ暗で。「降りろ！」と言うから降りた。そのうちにギーといって鉄の扉が開いた。「あれ、ことによったら、ことによるぞ！」といったところが、これをはずし、ネクタイをはずし、ポッケットに手をつっこんでタバコを出し。

IG:　全部みな。

KF: なにもかも取った。

IG: 取りあげちゃった。

KF: だからあの監獄に七十七日間おりまして。ワイルク監獄に。毎日だとパンツ落ちるでしょうが。ベルトがないでしょ。こりゃもう動物園の檻の中におる虎やライオンと同じさ。落ちるからこうやったまましばるでしょ。[立ち上がってズボンを抑える真似をする]　こうやったままベルトがないでしょ。あっちへふらふらこっちへふらふら。

IG: なにもその、娯楽もなにもなかった。

KF: なんにもなかった。そしてさっき言おうとしましたがね、十二月七日の夜中にぶちこまれたでしょ。夜が明けたらね「へい、ラインアップ!」[line up! 並べ！]　言うからねラインアップした。何かと思ったらまあ食事を取りに来いと言うの。食事言ってもコリアンです。朝鮮人が、まあ朝鮮人の囚人ですよ。顔のあばたの醜い人相の悪いやつがね。鍋の前に立ってんだ。もう一人の囚人が皿を渡すの。皿はどっからか拾ってきたようなかけた皿をボールみたいに一つづづ渡して、あばたずらのやつが一回ぽっと一杯づつこう入れるの。腹減るからもう食べましたよ。それは野菜やら肉やら訳のわからんものがごちゃごちゃしておった。ワンピース [one piece　一片] のブレッド。そのブレッド石みたいにかちかちなんですよね。売れ残りを貰い集めてきたもの。一週間ぐらいたって始めてその種が分りました。囚人が豚をかってんだ。監獄もやはり屋敷の中で人が住んでる。一週間にいっぺん豚をつぶすんですよ。そして良いとこ全部ガードや他の兵隊にやって。はらわたみたいにがしゃがしゃのところ、それを何でもかんでもぶった切りですよ。船が各島動かんでしょ。カフルイの桟橋にクラ辺りが出した野菜がもう腐ってるんですよ。それ皆タダ集めてきて何もかもぶち込んでガラガラガラ毎日毎日煮てんですよ。それをボールに一杯づつ

ですよ。

UN: 豚の餌みたいな。

KF:　ああ、豚カウカウよ。[kau kau 食物 。ハワイの俗語]

IG: 豚カウカウよね。

UN: それじゃメニューは同じ事ですか。

KF: 毎日それ。

IG: メニューなにもないよね、こりゃ。

KF: なにもある。でいよいよホノルルをでて大陸送りになるちょっと前にどっからかやはりその面会を許してから知れてきたんでしょう。今度差し入れが入るようになりました。これはオーケーしました。だから特におすしがはいってくる。なんかその､これは有り難く頂戴しましたが。その差し入れを有り難く頂戴するようになってほんのわずかで、にわかに移動命令です。

IG: 転勤やね。たいへんだったですね。

KF: 家の死んだ家内なんかはね。これは内緒の公然ていうんだけどね。差し入れの中にわしゃこれ好きでしょ。[お酒を飲む真似をする]　薬瓶の小さいのあるでしょ。そん中にウィスキー入ってました。こりゃあ有難かったな。

IG: 有難かったけど足りなかったでしょ。

KF: だけどね、すずめの涙ほどだけでもちょっと舐めただけでなんともいえず良い気持ちになる。

IG: ああ、なるほどね。

UN: 有難いね。

KF: ええ。持つべきものは女房なりとこの時だけは。

IG: 戦時中子供さん達が、子供さんが二人亡くなられたという。。。

KF: ええ。

IG: それはどういう。。。

KF: 一人はね、それはマウイの留守宅で夜中に急に発熱したんですよ。かかりつけのドクターを電話で呼ぼうとしたら電話線全部切ってしまってある。だからドクター呼ぶ事できないでしょ。で、家内は死んだ家内は一世でしょ。今の家内は二世だけれどもね。一世は外出まかりならんでしょ。だから医者呼ぶ事できん。

IG: それじゃ手がでんよね。

KF: 一晩夜を明かしてからドクターに来て貰った。もう、手遅れ。

IG: 手遅れね。悲劇じゃねえ。

KF: 二人目はアメリカ本土で生まれた子供。少し見ましたがな。これもやはり完全な設備がないから仕方が無い。

UN: 戦争の犠牲ですね。

IG: 大きな犠牲でしたね。はい。

KF: 一件落着ですか。

註： 「一隅会」はハワイ日本人移民および日系人の口述歴史インタビューを目的として、１９７０年代に荒了寛天台宗ハワイ開教総長によって設立されたグループ。